

## 【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」

- ・ タブレット端末を使用し自分の意見をまとめる。自分の学びの積み重なりを確認しながら学習を進めることができる。
- ・ クラウド活用により、各自の意見を共有する。
- ・ 自分以外の意見を共有することにより、友達の学びを自分の学習に生かすことができる
- ・ 教員が一人一人の学びを把握し、次の学習について助言することで、より深い学びとなることが期待できる。



## 【取組内容③】「端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実」

- ・ 毎日タブレット端末を持ち帰ることで、家庭学習においても日常的にタブレット端末を活用。
- ・ 毎日持ち帰っていることから、インフルエンザ等の流行や大雪等による学級閉鎖・臨時休校時においても速やかにオンライン授業を実施することができる。
- ・ 家庭学習において、デジタル教科書を活用することにより、紙の教科書を学校に置いてくることを可とした（所謂置き勉）「らくらく登校」を実施。



## 【取組内容④】「校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修」

- ・ 児童からのオンラインによる欠席連絡により即時に情報の共有化が可能。また、オンラインによる悩み相談にも活用されている。
- ・ 学校間等におけるオンライン会議を実施しており、集まる必要がないことから気軽に会議を開催できるようになった。
- ・ クラウドを活用したデータ共有により、学校間でのデータ共有・共同編集が可能となった。
- ・ 8月17日に東京学芸大学 高橋 純 教授、富山大学 山西 潤一 名誉教授、富山大学 黒田 卓 教授、林 誠一 教授を講師に招き、町内外の教職員を対象にDXスクールゼミと称したクラウド活用の研修会を開催。

